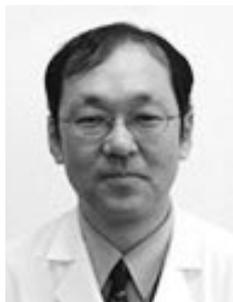


～ 林 原 賞 ～



藤原 俊義

略 歴

- 昭和35年11月14日生
- 昭和60年3月 岡山大学医学部医学科卒業
- 昭和60年4月 岡山大学大学院医学研究科（第一外科学講座）入学
- 平成2年9月 岡山大学大学院医学研究科（第一外科学講座）修了
学位授与（医学博士）（博甲第876号）
- 平成2年10月 備前市立備前病院勤務
- 平成3年1月 The University of Texas M. D. Anderson Cancer
Center Department of Tumor Biology, Postdoctoral
Fellow
- 平成4年1月 The University of Texas M. D. Anderson Cancer
Center Department of Thoracic and Cardiovascular
Surgery, Project Investigator
- 平成6年1月 岡山大学医学部附属病院 第一外科・医員
- 平成10年4月 岡山大学医学部 第一外科・助手
- 平成11年4月 岡山大学医学部附属病院 第一外科・助手
- 平成15年5月 岡山大学医学部附属病院 遺伝子・細胞治療センター・
助教授
- 平成19年4月 助教授は「准教授」となる。

研究論文内容要旨

癌抑制遺伝子 p53 を発現する非増殖型アデノウイルスベクター（ADVEXIN、Ad5CMV-p53）を用いた非小細胞肺癌の遺伝子治療を行った。岡山大学を中心に、多施設共同研究で15名の進行肺癌患者を治療した。ADVEXINは、気管支鏡下あるいはCTガイド下に腫瘍内に投与し、9例は単独、6例は抗癌剤シスプラチンと併用した。15例に63回の投与を行ったところ、93%に一過性の発熱がみられたが、特に重篤な副作用は認められなかった。13例（87%）で臨床効果の判定が可能であり、PR1例、SD10例、PR2例で、SDは1-11ヶ月（中央値4.4ヶ月）継続した。治療中、抗アデノウイルス抗体の存在にもかかわらず、12例中11例（92%）でp53遺伝子発現が陽性であった。非小細胞肺癌患者へのADVEXINの投与は、臨床上有用であり、認容性がある。第Ⅱ / Ⅲ相臨床試験での追試が望まれる。